

第51回 百周年記念史誌部会議事録

日時: 2010年7月28日(水) 16時10分～17時15分

場所: 重要文化財 2F 会議室

出席者: 横山孝男部会長、松田則男、栗野宏、小山明夫、大町竜哉、神戸士郎、奥山澄雄、新関久一、小池邦博、高畑保之、綿貫藤雄、片山政弘、山崎洋一郎各委員、小室秀一編纂室員、斎藤ひろみ編纂室補助員、小関栄助氏、

欠席者: 三角太郎委員(事務部係長・図書館情報担当)

【配布資料】

- [資料 51-1] 山形大学工学部 100 周年史誌編纂室 更新履歴 [A4/1 頁]
- [資料 51-2] 千住製絨所と多氣先生 [A4/12 頁]
- [資料 51-3] 大竹多氣論文「自動織機」と豊田自動織機開発の比較に関する報告 [A4/11 頁]
- [資料 51-4] 大竹多氣の父と兄弟(含(東)松田家の家系図) [A4/13 頁]
- [資料 51-5] [今月の話題] 理研でのポストク 渡辺裕輝 [A4/2 頁]
- [資料 51-6] 山形大学工学部百年史企画・編集・印刷・製本仕様書(素案) [A4/1 頁]
- [資料 51-7] 第4章 大学制度改革と新制大学の発足 [A4/9 頁]
- [資料 51-8] 大竹多氣記念物収蔵について 2010/7/26 奥山澄雄 [A4/7 頁]
- [資料 51-9] バーチャルミュージアムに関する調査報告 小山 明夫 [A4/2 頁]
- [資料 51-10] Homecoming day 「記念講演会」の件 2010.7.28 編纂室 [A4/1 頁] + [B5/1 頁]

I) 報告&連絡事項

1. 斎藤ひろみ編纂室補助員からホームページの更新に関する報告があった。
 - (1) 6月25日に100年史誌部会の第48回、7月8日に第49回議事録を公開した。
 - (2) 7月14日に今月の話題6月号(南後淳先生)ならびに7月号(多賀谷英幸先生)を公開した。

II) 協議事項

1. 百年史

- ① 大竹多氣に関して、小関氏から、資料51-2, 51-3, 51-4に基づき説明があった。
 - 1). 千住製絨所と大竹多氣に関して、多氣が千住製絨所長の時に日露戦争が勃発し生産量が増大している。特に所長を担当する前年度に八甲田雪中行軍遭難事件が起き、軍装の変化に千住製絨所の技術革新が大きな影響を与えた[資料51-3]。
 - 2). 大竹多氣の論文「自動織機」と豊田自動織機開発の比較に関して説明があった[資料51-3]。
 - 3). 大竹多氣の父と兄弟について、松田家は遠戚に児玉源太郎や夏目漱石、伊藤博文、末松謙澄などがいる名家であることがわかった[資料51-4(含(東)松田家の家系図)]。
- ② 今月の話題について
 - 1). 神戸委員から、生体センシング機能工学専攻に関する教員として応用生命システム工学分野・渡辺裕輝教員から「理研でのポストク」[資料51-5]と題する寄稿が寄せられた旨、報告があった。
 - 2). 次回の担当は山崎委員である。
- ③ 百年史の構成と日程について
 - 1). まず栗野委員から百年史を出版するにあたり具体的な行動計画に関する意見が出された。すなわち、100周年記念誌の場合に準じるならば、企画・編集仕様書(第21回100年史誌部会資料参照)に基づき出版会社の入札を行った。100周年記念誌とは異なり業者が執筆するのでは無く、

私たち委員が執筆依頼又は執筆・編集することになるが、それでも出版会社もしくは印刷製本会社などの専門業者から意見を聞く必要があるのではないだろうか。

- 2). これに対して横山部会長から、100周年記念誌と同様の計画と予算を総務部会が認めることは困難であろう。印刷は依頼することになるから、印刷という観点で専門家から助言を受けることは可能であろう。すなわち、完成度の高い原稿を印刷業者に渡し、印刷と製本を依頼する。その作業に付随して業者から助言を受けるということである。
- 3). 栗野委員から、業者の選定は入札になるのか、という質問が出され、横山部会長から予算を255万円とっており、入札をかける必要がある。前回は全国の会社に対して入札公募をしたが、今回は地元の業者に重きを置くことも考慮に入れる必要があるとの回答があった。
- 4). 栗野委員から米沢市史は川島印刷が印刷・製本をしたとの情報が寄せられた。
- 5). 横山部会長から、年度内の納入を想定したスケジュール案を次回の部会までに提案して欲しい旨要望が出された。

④ 米沢工業大学の創設計画

- 1). 米沢工業大学の創設計画に関して、小室編纂室員から資料51-7に基づき説明がなされた。
- 2). 新制大学の制度化に併せて工業単科大学としての昇格準備委員会が開催された。その議論の中で、世界的なカレッジを目指すことを目標に掲げているなど興味深い資料が見つかった。

2. 記念物検討班

① 大竹多氣記念物収蔵について

- 1). 奥山委員から資料51-8に基づき説明があった。その中で三角係長には正式に史誌部会の委員に就任していただきたい旨、要望が出され、横山部会長から依頼することとなった。
- 2). 10月の大竹多氣展に向けての記念物の配送は大竹茂樹先生ならびに明治大学から行うことにする。大竹俊樹先生や明治大学には小関氏が実質的な窓口となっているので、小関氏と三角係長が直接連絡を取り合い、記念物の配送などを担当することが望ましいとの意見が出された。
- 3). 受け入れや借り出しについて、山形大学附属博物館資料受入要項ならびに国立法人山形大学資産寄付事務取扱規定に準じて作業を行う。これらの規則は価値の無い物を排除する規則(例えば受入要項第4条2項の規定)であるため、今回は問題が無い物と考える。
- 4). 配送については美善社美術専用車両を有しているなど、歴史的資料を搬送するに相応しいとした。

② バーチャルミュージアムについて

- 1). 小山委員から資料51-9に基づき調査報告があった。
- 2). 新たに関西大学博物館の情報も加えた。関西大学の簡文館は平成18年度の登録有形文化財に登録された。関西大学のバーチャルミュージアムでは、3D CGを利用し、閲覧者が建物に入り閲覧するようなイメージで利用できる。その中である場所をクリックすることで画像や説明文が表示される。東京大学はリアルとバーチャルの融合システムの坂村健教授の研究プロジェクトとして進められている。
- 3). 山形大学として人員や予算の確保が問題である。構築と保守、また保守だけを広報室の業務として行うことが望ましい。人員や予算の確保が困難であるときはバーチャルミュージアム構想は断念せざるを得ない。
- 4). 奥山委員から、丸善(ならびに大日本印刷)から図書館の三角係長に「デジタルアーカイブのうちくと画像ライセンスのご提案 アーカイブ&ライセンス・ソリューション(2010年7月)」の紹介があった、との報告があった。しかし、これらパッケージソフトは高価であることが問題である。
- 5). 横山部会長から、三角係長にも加わって頂き、必要な費用も含めていくつかの提案や解決案を3月末までに提示するよう、要請が出された。

3. 100年記念誌

- ① 松田委員から記念誌の発送作業が7月下旬から始まったと報告があった。
 - 1). 原稿執筆の方への寄贈分は部会で発送作業をする予定であったが、企画総務チームで代行することになったため、発送先一覧表を渡した。住所の確認がとれていない執筆者が10名ほどいる。各系の担当者は執筆者の住所の確認をしていただきたい。
 - 2). 小室委員から、学内の教職員へは学内便で良いと考えるが、退職者もいるので確認が必要であるとの指摘があった。

4. 10月9日ホームカミングデー記念講演

- ① 横山部会長から、大場工学部長と相談をし、資料51-10「Homecoming day「記念講演会」の件」に示した通りの時間帯が設定できそうである旨報告があった。
- ② 小室編纂室員から3. 検討案の案1ならびに案2について説明があった。
 - 1). この案に対して、小関氏から大竹俊樹先生は大竹多氣の話題について準備に時間をかけているようである旨報告があり、大竹多氣に関する講演は大竹俊樹先生に依頼するのが妥当であろうとの提案がなされた。
 - 2). 大竹俊樹先生の体力について質問が出たが、講演いただく分には問題なからう、との回答があった。
 - 3). 時間の延長についての質問が出たが、工業会の午前中の会議自体、従来よりも1時間短くしているため、前倒しは難しいであろうとの回答があった。
- ③ ホームカミングデーの企画については山崎委員にも入っていただき、小関氏と詳細を詰めていただき、その後、副学部長と相談、交渉していくこととした。

III) その他

1. 次回の部会について
次回の会議は9月1日(水)16時から第一応接室で開催の予定。

2010年8月31日